

戦禍を逃れて4年、 ウクライナ避難者の 「いま」と 「これから」。

メディアご取材のお願い
岡山での支援活動報告会、
メディアご取材のお願い

日時：2026年1月17日（土）
場所：カトリック岡山教会





「家と、人生をかけて 手に入れたすべてを 置いていく… 想像を絶する恐怖でした」

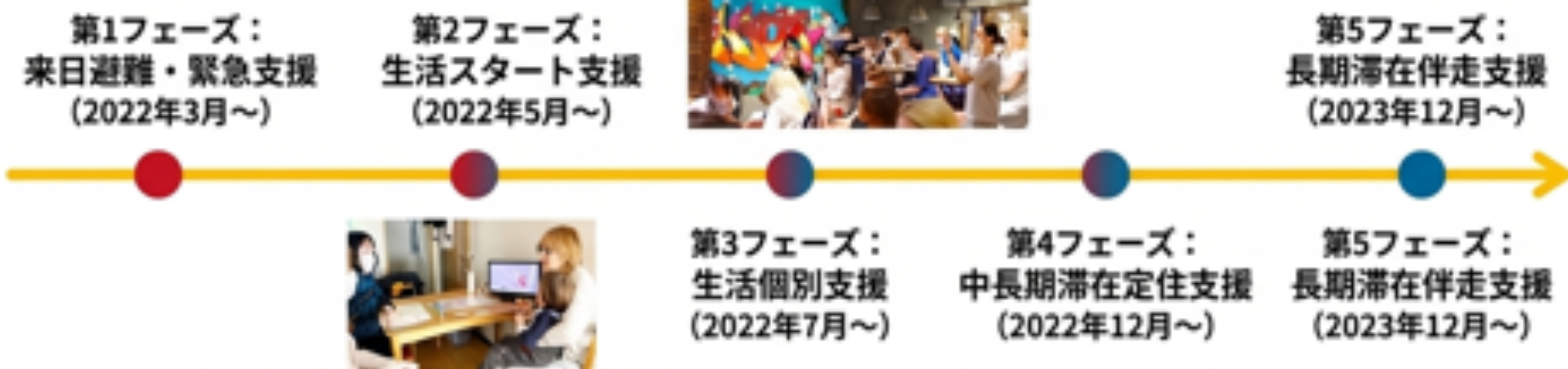
日本YMCA同盟が最初に来日を支援した避難民、
テディアナ・ロバテンコさんの手記より。

「ほんの数日前まで美しかった私の国が廃墟と化していくのを
目の当たりにするのはとても恐ろしく悲しい気持ちでした。
半壊した家屋、学校… もしかしたら次の瞬間、バスに爆弾が落
ちてくれば、この世から自分があとかたもなく消えてしまうか
もしれない、という恐怖。自宅を出てポーランドまでの道中で
一番辛かったこと。それはおそらく、家と、これまでの人生をか
けて働いて手に入れたすべてを置いていくということです。」

支援は緊急対応から、長期的な「伴走」へ

ロシアによる侵攻開始から4年。日本には約2,800名が避難し、今も慣れない地での生活を続けています。日本YMCA同盟は、全国で約1,800名（国内最大規模）の避難者に寄り添い、支援を続けてきました。支援は、来日直後の緊急支援から、地域化、地域社会での自立を目指す長期的な¹伴走支援へと移行しています。

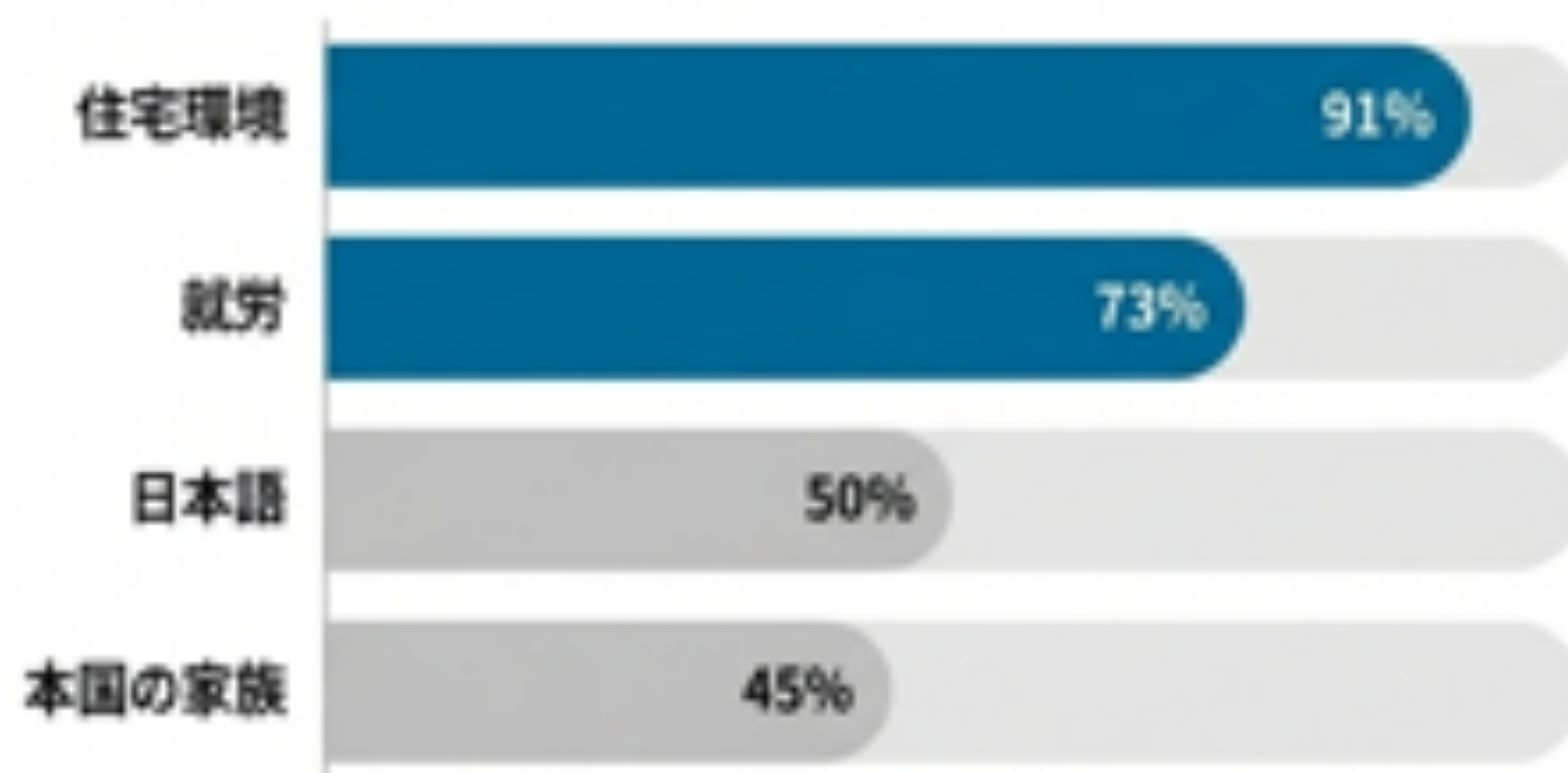
YMCAの支援フェーズ



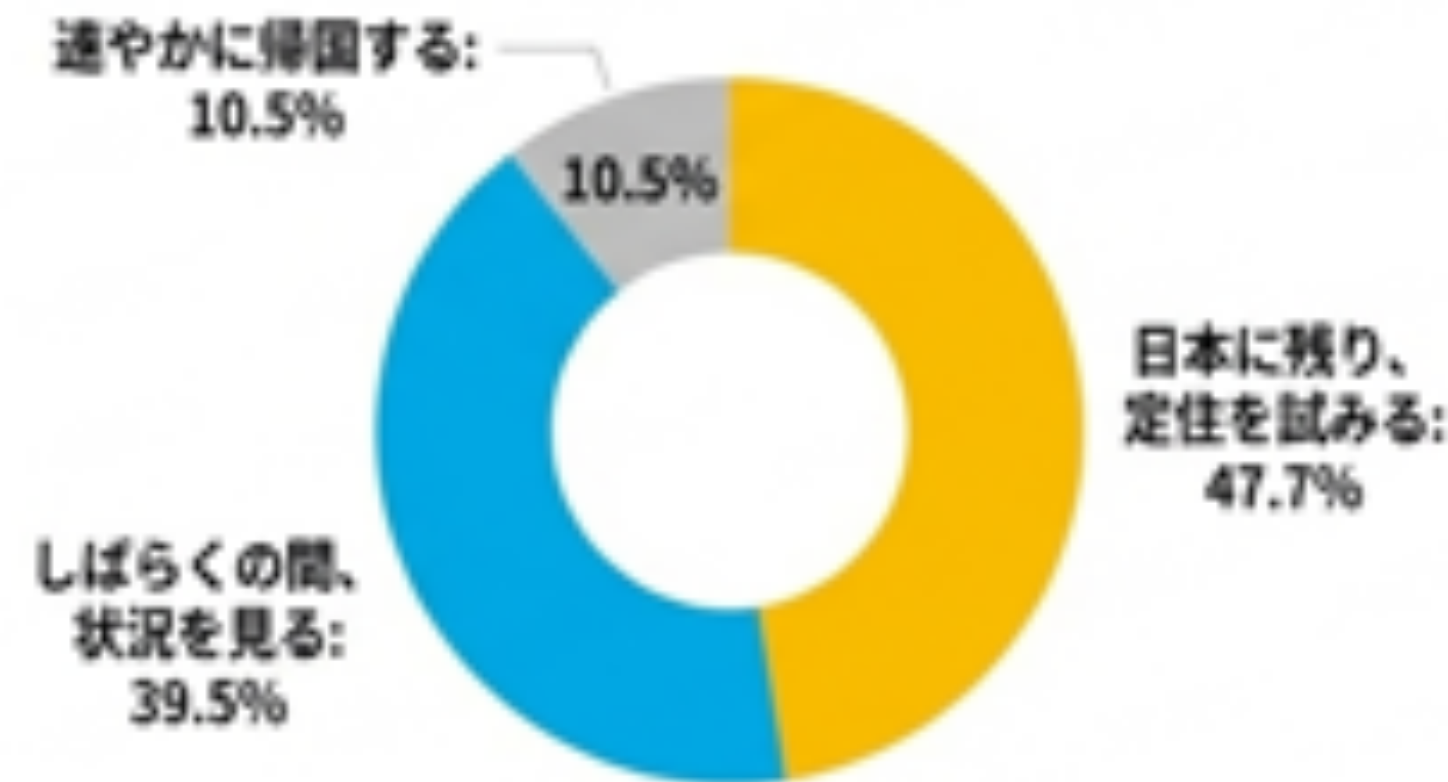
データで見る新たな現実：長期化する避難生活と将来への不安

2024年2月にYMCAが実施した避難者アンケートでは、生活の長期化に伴う新たな課題が浮き彫りになりました。特に住居と就労に関する不安が際立っています。また、9割近くが当面の日本滞在を希望しており、支援の焦点が「定住」へと移行していることが明らかです。

グラフ1：長期的な支援が終了する場合の不安（複数回答）



グラフ2：戦争が終結した場合の希望



なぜYMCAか？ 180年にわたる人道支援の歴史

1844年にロンドンで設立されたYMCAは、「精神・知性・身体」の調和の取れた成長を願う理念のもと、世界的な活動を展開してきました。その歴史は、常に社会のニーズに応える人道支援と共にありました。第一次・第二次世界大戦における兵士への支援など、危機に瀕した人々に寄り添い続けた経験が、現在のウクライナ避難者支援の礎となっています。

- 1844年: 英国ロンドンでジョージ・ウィリアムズらにより創設。
- 戦時下での活動: 第一次・第二次世界大戦中、前線や国内で兵士たちに休息、食事、精神的なケアを提供。
- 理念: 「みつかる。つながる。よくなっていく。」というスローガンのもと、一人ひとりに寄り添う活動を実践。



みつかる。つながる。よくなっていく。

「伴走支援」の具体像：一人ひとりの生活に寄り添う多彩なプログラム

YMCAの支援は、金銭や物資の提供に留まりません。避難者が日本社会で孤立せず、心身ともに健康な生活を再建できるよう、多角的な「伴走支援」を展開しています。



Ukraine Café HIMAWARI

避難者同士や地域住民が安心して集える交流の場。生活講座や情報交換会を実施。



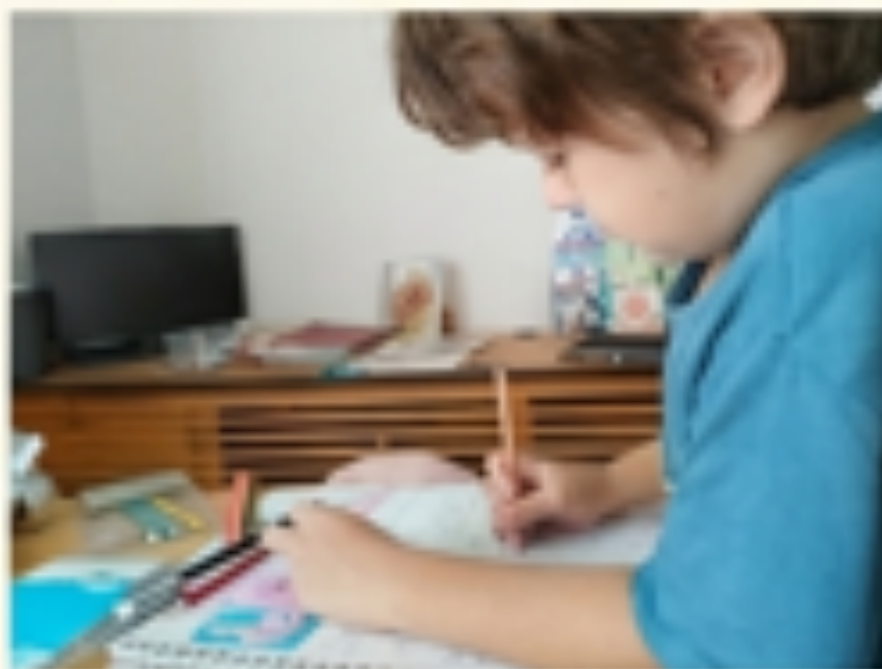
メンタルヘルスケア

終わりの見えない避難生活による精神的負担を軽減するためのカウンセリングやワークショップ。



子どもの教育支援

日本の学校に馴染むための宿題サポートや、将来の可能性を広げるプログラミング体験（Amazon Cyber Robotics Challenge）。



キャリア開発

言葉の壁がある中でも専門性を活かせるIT教育研修コースの運営や、就労相談、履歴書作成支援。



現場からの声：支援責任者・横山 由利亜

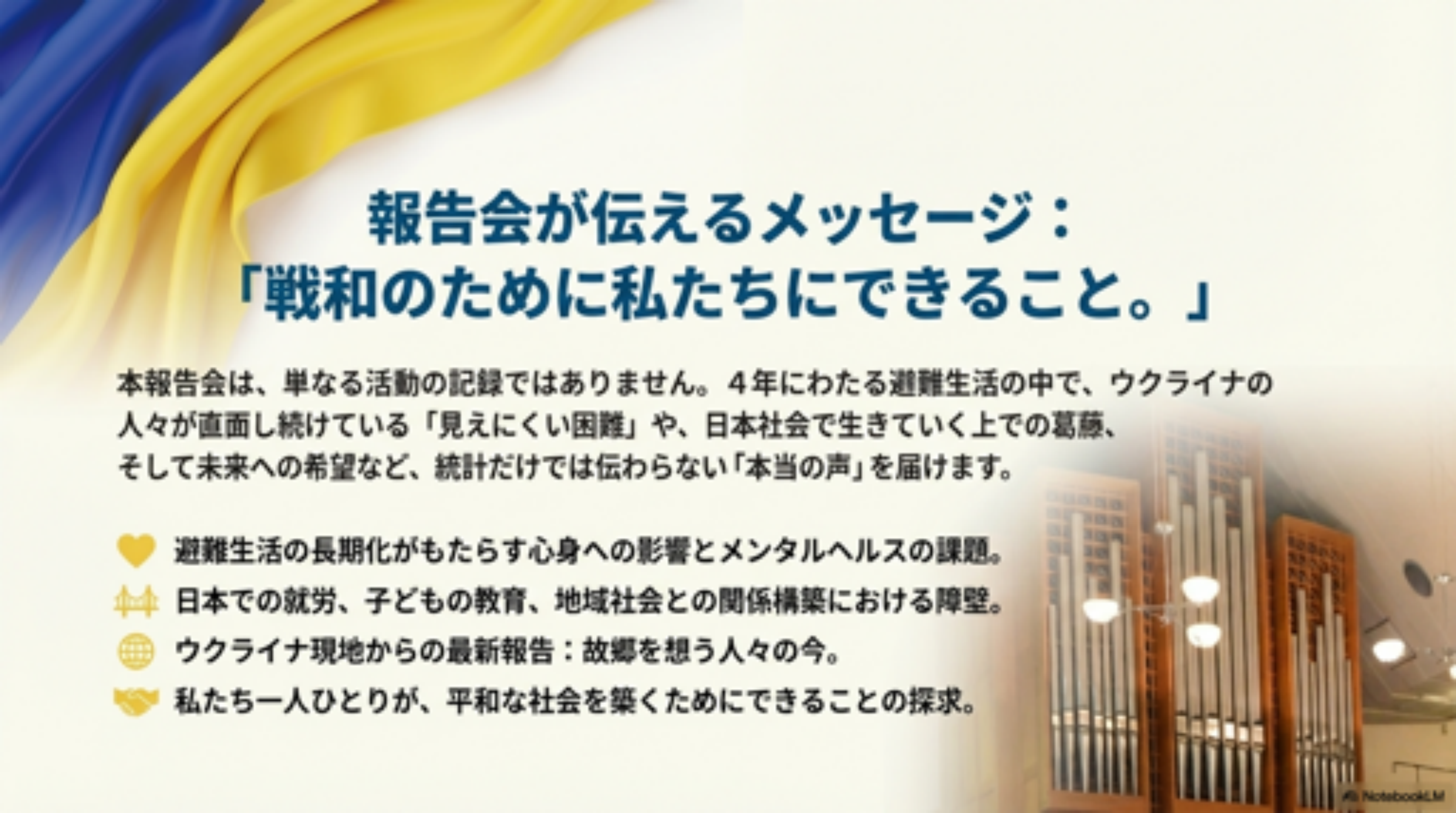
横山 由利亜（よこやま ゆりあ）
公益財団法人 日本YMCA同盟
ウクライナ避難者支援プロジェクト責任者

1993年に日本YMCA同盟に入職後、国内外の人道支援に長年携わる。2022年2月の侵攻直後、本プロジェクトを立ち上げ。以来、1,800名近い避難者の来日から生活自立まで、一人ひとりと直接対話を重ね、伴走支援を指揮。

特筆事項 (Highlights)

- 現場主義：東京都との協定事業も担当し、都営住宅の全戸訪問などを通じて数百世帯の生の声を直接ヒアリング。
- 最新情報：2024年10月にウクライナを訪問し、現地のYMCAの活動を視察。戦時下の市民生活や支援ニーズに関する最新の情報を報告予定。





報告会が伝えるメッセージ： 「戦和のために私たちにできること。」

本報告会は、単なる活動の記録ではありません。4年にわたる避難生活の中で、ウクライナの人々が直面し続けている「見えにくい困難」や、日本社会で生きていく上での葛藤、そして未来への希望など、統計だけでは伝わらない「本当の声」を届けます。

- ♥ 避難生活の長期化がもたらす心身への影響とメンタルヘルスの課題。
- 🏠 日本での就労、子どもの教育、地域社会との関係構築における障壁。
- 🌐 ウクライナ現地からの最新報告：故郷を想う人々の今。
- 🤝 私たち一人ひとりが、平和な社会を築くためにできることの探求。

【開催概要】 戦禍を逃れて4年～ウクライナ避難者 支援活動報告会

ウクライナの人々の現状と、私たちの社会が果たすべき役割について考える、中国地区では貴重な機会となります。皆様のご来場、ご取材を心よりお待ちしております。

日時：2026年1月17日（土）
14:00～16:00（予定）

会場：カトリック岡山教会

住所：〒700-0814 岡山市北区天神町6-27

入場料：無料（当日会場にて寄附を募ります）

主催・共催

主催：岡山ワイズメンズクラブ（60周年記念事業）

共催：公益財団法人 YMCAせとうち



プログラム詳細

第一部：報告会「ウクライナ避難者の『いま』と『これから』」

登壇者：横山 由利亞（日本YMCA同盟プロジェクト責任者）

- **内容**：ウクライナ現地の最新状況、日本における避難者支援の現状、アンケート調査から見ええた長期的な課題と今後の展望について報告します。

第二部：パイプオルガン演奏

演奏者：竹佐古 真希（オルガニスト）

- **内容**：報告会で語られた想いを受け、平和への祈りを込めて荘厳なパイプオルガンの音色を届けます。静かな思索の時間です。



質疑応答

報告内容に関して、報道関係者の皆様からのご質問をお受けします。

報道関係者の皆様へ：ご取材のお願い

本報告会は、ウクライナの人々が直面する現実と、日本の地域社会が果たすべき役割を考える貴重な機会です。

4年という月日経ち、関心が薄れつつある中で、避難生活が日常になった人々の「今」を伝えることは、非常に重要な意味を持ちます。彼らが抱える長期的な課題や、日本社会の一員として生きようとする姿を、ぜひ貴社媒体にてお取り上げいただき、この物語を広く読者・視聴者にお伝えいただけますよう、何卒お願い申し上げます。

ご取材機会とお問い合わせ先

ご提供可能な取材機会 (Noto Sans JP Black)

- ✓ 報告会当日のご取材（撮影・録音可能）
- ✓ 報告会終了後の質疑応答
- ✓ 登壇者・横山由利亜への個別インタビュー
（事前・事後ともに調整可能）
- ✓ 主催団体（岡山ワイズメンズクラブ、YMCA
せとうち）関係者へのインタビュー

ご提供可能な素材

- 📄 本プレスリリース資料（スライドデッキ）
- 📄 避難者アンケート調査のサマリーデータ
- 📄 YMCAの支援活動に関する高解像度写真

本件に関するお問い合わせ

担当：公益財団法人 YMCAせとうち
[仲間合せ各先者]

☎ 電話：086-223-1509

✉ Email

主催団体について

主催：岡山ワイズメンズクラブ

YMCAの活動を支援する国際的な奉仕団体「ワイズメンズクラブ国際協会」に所属。地域社会への奉仕活動を行っており、本報告会はクラブ創立60周年記念事業として開催されます。

共催・問合せ：公益財団法人 YMCAせとうち

岡山、倉敷、福山などを拠点に、地域に根差した青少年育成、福祉、国際協力などの活動を展開。YMCAの理念に基づき、地域の人々が健やかに成長できる社会を目指しています。

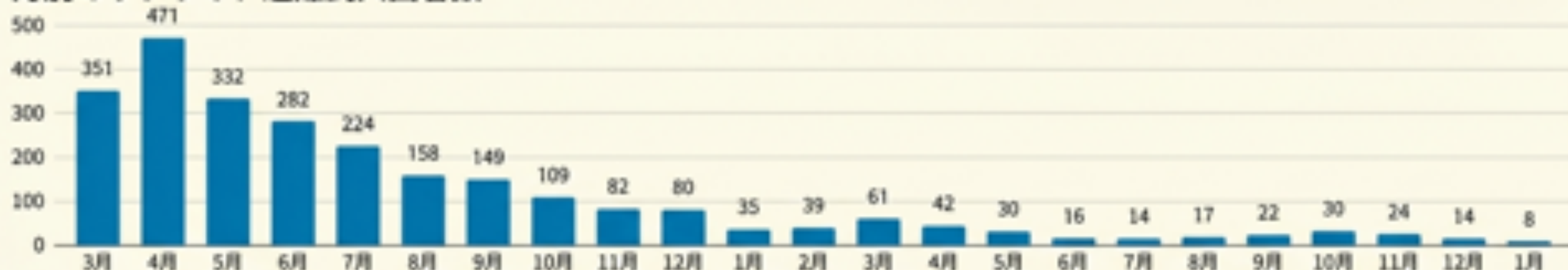
📍 所在地：[Address of YMCA Setouchi]

☎ 電話：086-223-1509

🌐 ウェブサイト：

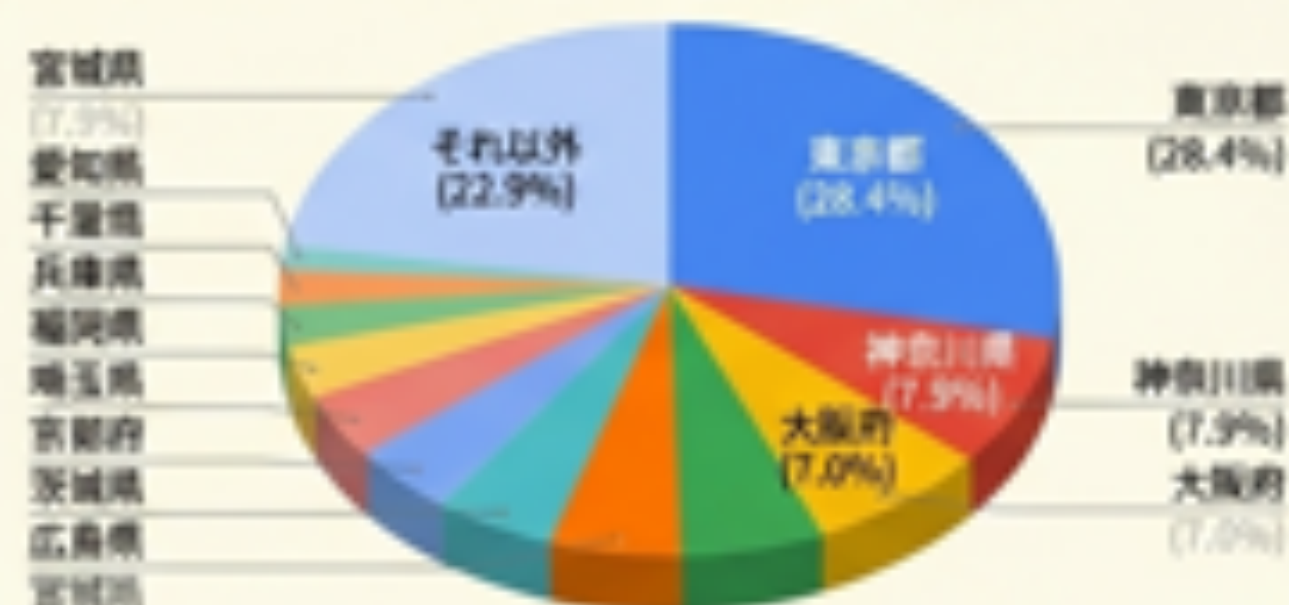
【参考資料A】 ウクライナ避難民に関する主要データ

月別のウクライナ避難民入国者数



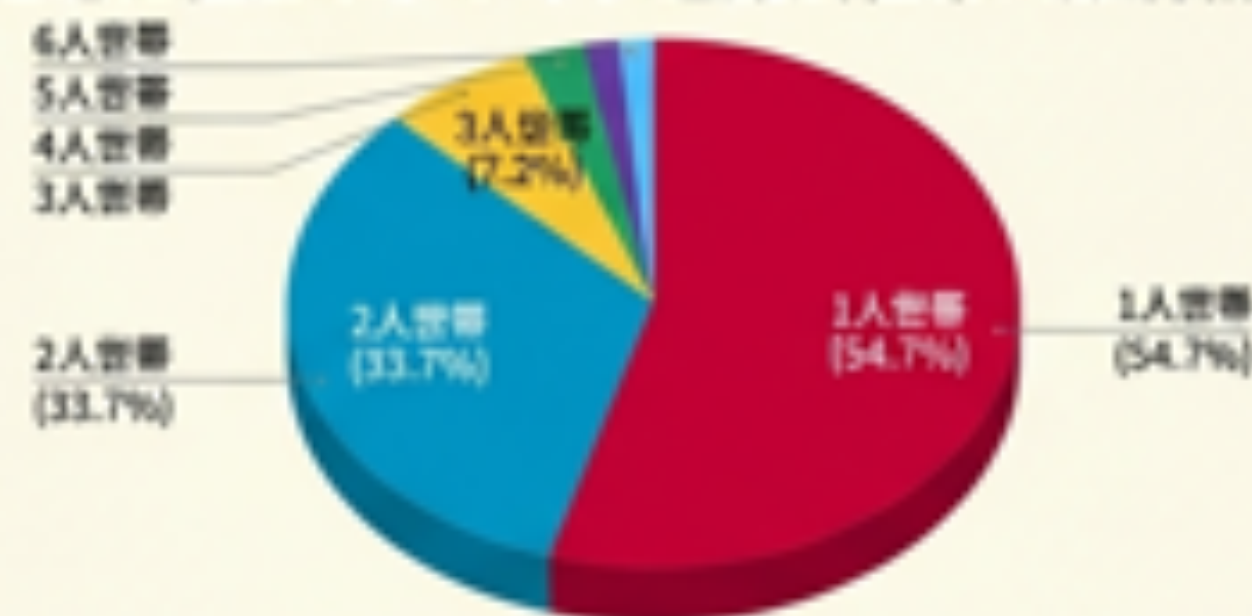
月別のウクライナ避難民入国者数：侵攻直後の2022年4月(471人)、5月(332人)をピークに、その後は緩やかに推移。現在も毎月20名前後の新規入国者がいる。

都道府県別ウクライナ避難民在留者数



都道府県別ウクライナ避難民在留者数：東京都(28.4%)、神奈川県(7.9%)、大阪府(7.0%) など、大都市圏に集中している。

都営住宅に住むウクライナ避難民世帯人数別構成



都営住宅に住むウクライナ避難民世帯人数別構成：単身世帯が54.7%、2人世帯が33.7%と、少人数世帯が全体の約9割を占める。



【参考資料B】 公益財団法人 日本YMCA同盟について

概要：日本YMCA同盟は、日本国内にある35の都市YMCAと37の大学・高校YMCAが加盟する、日本のYMCA運動を代表する全国組織です。1903年に設立され、各地域・学校のYMCA活動を支え、国内外のネットワークを活かした国際協力や社会貢献活動を推進しています。

ウクライナ支援における役割

- 全国的な支援の統括：全国YMCAと連携し、避難者の情報集約、支援方針の策定、ノウハウの共有を行う。
- 国際ネットワークの活用：世界YMCA同盟やヨーロッパYMCA同盟と連携し、出国前から来日後まで一貫したサポート体制を構築。
- 政府・行政との連携：厚生労働省や東京都などと協定を結び、公的な支援事業の中核を担う。

ウェブサイト

日本YMCA同盟公式サイト：<https://www.ymcajapan.org/>

ウクライナ緊急支援特設サイト：<https://www.ymcajapan.org/ukraine-donation/>

